高梁の高校に行こう！①

go! go! HIGH SCHOOL IN TAKAHASHI

「教育のまち」高梁には、高校が5校あります。3万人規模の市で、5校も高校があることは珍しく、また、それぞれに学校独自の特徴をもっています。

教育のまち高梁　高校クイズ

地図中にある高校が、次のどれに当てはまるか分かりますか？

A 来年度入学生より4科すべてでコース制を導入、制服も新しくなる専門学科の県立高校

B 働きながら勉強や部活動に取り組める、普通科の市立夜間定時制高校

C 普通科と家政科があり、進路や興味関心によって授業が選べる創立135年の伝統校

D 『日々新たなり』の建学の精神のもと、さらなる飛躍を目指す高梁唯一の私立高校

E 充実した学校設定科目があり、3年間で卒業できる普通科の市立昼間定時制高校

クイズの答え
A 県立高梁城南高校
B 市立松山高校
C 県立高梁高校
D 高梁日新高校
E 市立宇治高校

中学生とその保護者の皆さんは、市内で、自分に合った高校を選ぶことができます。

広報たかはしでは、進学を控えている中学生はもちろん、市民の皆さんに5つのすばらしい高校について知ってもらえるように、「高梁の高校に行こう！」と題して、次号から順に紹介していきます。

問 学校教育課☎21・1508

医療と福祉と生活をつなぐ ③

～ 実務者による連携の実際 ～

第３回目の今回は、高梁地域医療連携実務者協議会(以下、実務者協議会)の取り組みのうち「実務者による連携の実際」についてご紹介します。

入院であっても、在宅であっても、患者さんは多くの不安を抱えています。だからこそ、「専門職がそばにいる」、「退院に向けて多くの専門職が関わっている」ことで安心感を持てるよう、専門職同士が連携を図っています。

例えば、病院から退院する時には、病院スタッフとこれから在宅生活を支えるスタッフで、それぞれの立場から退院後の生活上の注意点や、外泊訓練の結果を確認して、実際の生活上の問題点を共有する会議(多職種共同カンファレンス)を行います。

また、在宅での生活では、住宅改修が必要となる場合もあります。家屋調査のために、ケアマネジャー、リハビリ職員等に加えて、福祉用具事業所等の住宅改修の施行者などの多職種で訪問することがあります。これは、その場で具体的なアドバイスや確認をすることで、効率的で本人の身体にあった住宅改修を行うことを目的としているからです。例えば、手すりを取り付ける時、壁の補強の有無などは医療職ではなかなか判断することができません。そこで、住宅改修の施行者に専門的な立場からアドバイスをもらいます。

今回、実務者協議会の皆さんにお話しを伺い、医療職、福祉職に加え、福祉用具事業所等、実に多くの専門職とネットワークを構築していることを理解し、だからこそ、安心した生活を送ることができているのだと分かりました。

【インタビュー】森下（もりした） 茜（あかね）さん、角（すみ） 美星（みほし）さん(吉備国際大学社会福祉学科３年)
【指導】岡崎（おかざき） 幸友（ゆきとも）准教授(吉備国際大学社会福祉学科)

■問い合わせ　保険課連携推進係　☎21-0304

協力隊がゆく！

成羽町担当の佐藤です。今年の8月で3年の任期が終了しました。これまで活動を支えてくれた皆様、応援いただいた皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。3年間ありがとうございました。

私の3年間は、地域の協力のもと、5つの事を中心に活動しました。

①イベント準備や活性化の会議に参加する「地域活動の応援」
②Facebookやテレビ出演で高梁のPRをした「情報発信」
③ベンガラ型染めや柚子胡椒の開発など「特産品の開発」
④陶芸やイベントに出店する「自身のスキルアップ」
⑤コタツで見る神楽やげんき酒場などの「イベントの企画」です。

ゼロからのスタートでしたが、振り返るとたくさんの出会いがあり、とても充実した日々でした。

今後も吹屋を活動拠点に、眠れる資源を見つけ、新しい企画の芽を大きく育てたいと思います。

また、9月から高梁市の「移住コンシェルジュ」に就任します。これは過疎・高齢化に悩む地域と田舎暮らしがしたい移住者を繋げる仕事です。これまでの経験を活かして、多くの人を高梁へ呼び込みたいと思います。

最後になりますが、平成25年に吹屋小学校で挙げた私の結婚式のことが、全国の協力隊の事例を集めた書籍にとりあげられました。3年の節目にこの様な本に掲載されたことを嬉しく思います。

話題の書籍「地域おこし協力隊　日本を元気にする60人の挑戦」(学芸出版社)は8月26日に発売。佐藤さんの結婚式については表紙にも(写真左下)。